

# 経理局メールマガジン★

## ～物件費の最適化～ (主計課)

機密性2  
令和4年9月21日発行 第79号

### 0 まえがき

昨年から、経理局では「物件費の最適化」がちよつとしたトレンドになっていきます。今回のメルマガは、このトレンドにスポットを当てて、みなさんとどんなことができるのかを一緒に考えていきたいと思っていますので、ぜひお読みください。

### 1 国の財政状況と裁判所予算

メルマガ76号で国の財政状況について説明したとおり、この30数年間の国家予算の増加分は、社会保障費や国債費(借金の返済)がほとんどを占め、公共事業などの経費はほぼ横ばいといった状況です(右図参照)。

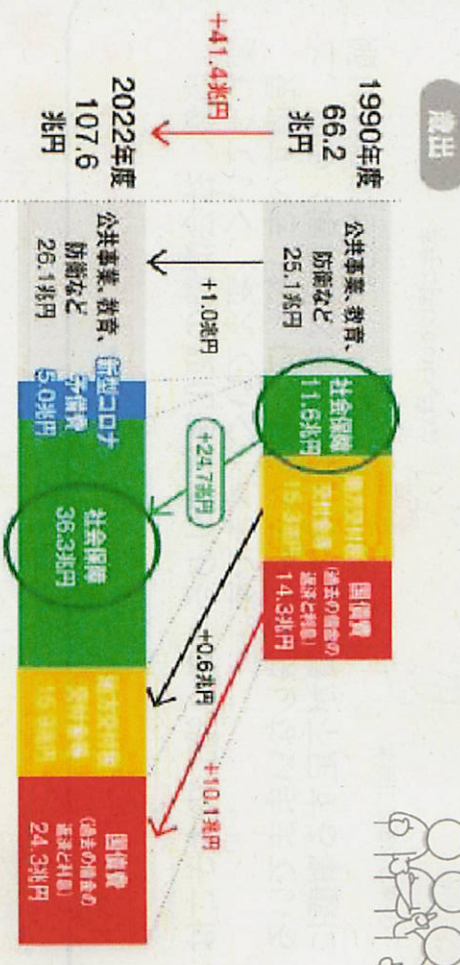
裁判所予算は「公共事業など」の一部であるため、「一定の範囲内で予算をやりくりすること」を求められています。

「一定の範囲内で予算をやりくりする」とは、増やす必要がある経費が発生した場合、代わりに何らかの経費を減らす必要があることを意味します。いわゆる『スワップ・ファンド』です。



もちろん、やむを得ず一時的に急増する費用がある場合、一定の政策目的で編成される補正予算や、一定の要件の下での別枠での予算措置(「特殊要因」と呼ばれています。)を活用するなど、様々な手法を駆使して一時的に対応するための工夫を行っています。

しかし、裁判所を含めた国の財政状況も踏まえると、恒常的に予算を増やしていくことは困難な状況です。



出典:「これからの日本のために財政を考える」財務省ウェブサイトを  
[https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal\\_condition/related\\_data/index.html](https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/index.html)

# 経理局メールマガジン★

(主計課)

## ～物件費の最適化～

令和4年9月21日発行 第79号

機密性2

### 2 スクラップ・アンド・ビルド

この『スクラップ・アンド・ビルド』は、実際の場面では様々なルールや制約が課されているものの、簡略化すると次のようなイメージで行われてきました。

予算を使う場面では、基本的に経費ごとに予算科目という「箱」が決まっております。その「箱」の中から決められた経費を使うというルールがあります。例えば、旅費のお金が残ったからといって、そのお金で鉛筆を買うことはできません。



### 3 物件費の最適化って？

当然、社会情勢の変化等によりあるべき「箱」の大きさは変わっていく(変えていく)べきです。  
見直すべき「箱」に、あるべき姿を反映しないまましていると、別の(増えるべき)「箱」の中の経費が不足する事象に陥りかねません。



そうならないためには、予算を使う段階で、真に必要なか、他で代替できないか、社会情勢の変化にもかかわらず従来からの出費を漫然と続けている部分はないか等を検討し、その必要性を吟味する必要があります。

そして、こうした毎年の検討が「次の予算要求に活かされる循環」のことを「物件費の最適化」と呼んでいます。

### 4 新しいことではありません！

「物件費の最適化」と表現すると仰々しいですが、実は、これまでも行ってきたことを改めて示したものであり、これを様々な形で発信することで、裁判所全体で意識的に考えていきたい、という取組になります。

# 経理局メールマガジン★

## ～物件費の最適化～ (主計課)

機密性2  
令和4年9月21日発行 第79号

### 5 令和4年度予算について (裁判所のデジタル化)

本取組の観点から、令和4年度の裁判所の予算構造を見てみるとどのような点が見えてくるでしょうか。

裁判所予算は人件費が全体の8割を占めており、庁舎維持に必要な保守経費や新規施策に当てる費用は全体の1割程度に過ぎない「物件費」から賄われています。

「物件費」の中で最も大きな割合を占める「庁費の類」は、例年、庁舎維持管理等経費がトップシェアを占めていましたが、令和4年度に初めて、情報システム関連経費に置き換わりました。

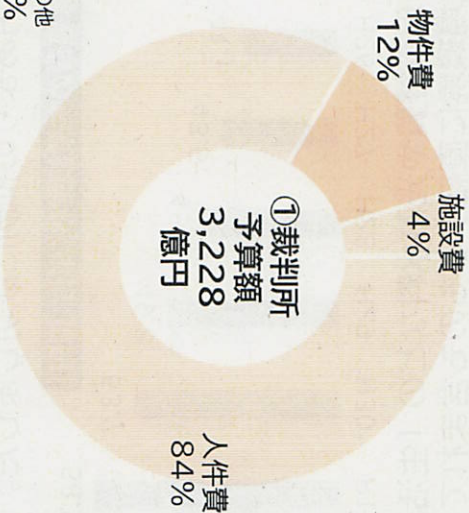
この要因としては、「デジタル化」の波が裁判所にも押し寄せているという時代背景を無視することはできません。この「デジタル化」は、裁判手続のデジタル化はもちらんのこと、会計部門を中心とした新たなシステムの導入等、裁判所の至るところで進んでいます。

さらに、来年度にはM365 (※) の導入が検討されており、裁判所の事務は、裁判・司法行政問わず大きな変化の過渡期にあります。

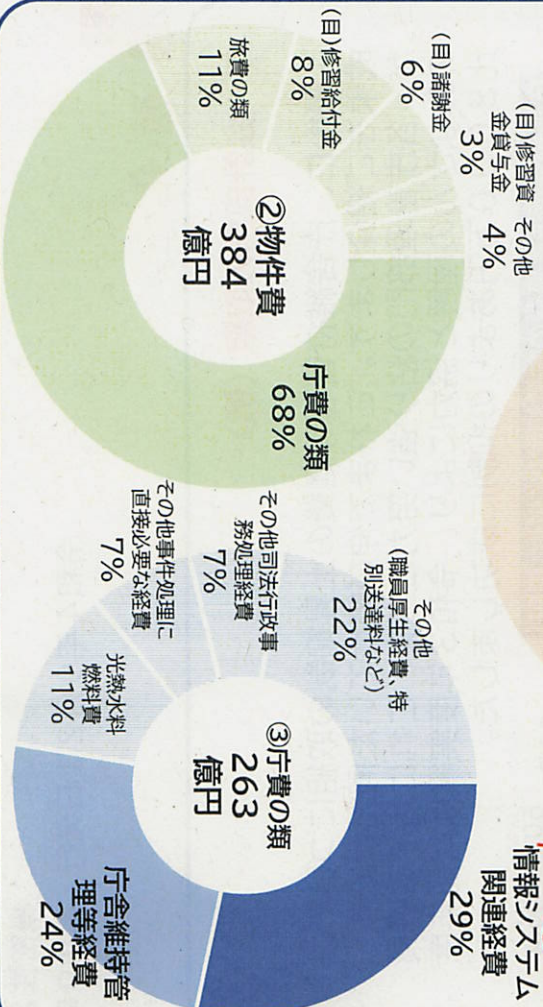
(※) Microsoft365のこと。新たなコミュニケーションツールとして導入予定。



令和4年度  
裁判所予算



↑  
情報システム  
関連経費  
29%



# 経理局メールマガジン★

(主計課)

## ～物件費の最適化～

令和4年9月21日発行 第79号

機密性2

### 6 みなさんと何を考えていきたいのか？

経理局では、今まで当たり前に行ってきた事務を振り返り、新しい仕事のやり方を模索しています。この機会に、みなさんも、各部署で今できることを考えてみませんか。

例えば、裁判部であれば部会資料等の電子媒体化や、事務局であればOutlookを利用した電子決裁の活用など、現在の環境で実践できる様々な工夫をしてみると、いろいろなメリットが出てきます。

これらのメリットには、事務の合理化はもちろんのこと、紙の調達・廃棄コストの減という効果も含まれ、そういった取組の積み重ねが「物件費の最適化」につながる、ということになります。

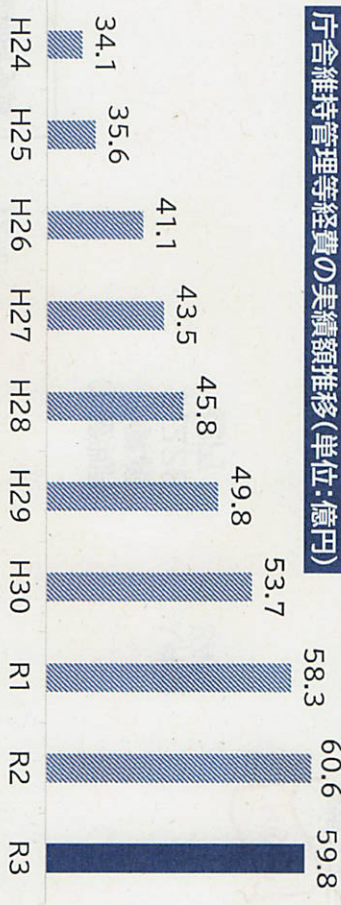
このように、何でも節約する、という話ではなく、変革期にある機会を捉えて、日々の業務を、時代に即したよりよい姿へと少しずつ変えていく、その一歩を踏み出しませんか。そして、その結果が予算構造の変化に反映されるというサイクルが生まれればうれしい限りです。そのためにはみなさんの行動が重要な要素であり、経理局としても、実践に向けて、一緒に考えていきたいと思っています。



### 7 会計部門の取組 (例)

最後に、庁舎維持管理等経費の上昇抑制の取組について、成果をご紹介します。これまで伸び続いていた同経費ですが、各庁舎管理部門の粘り強い努力と工夫、これに対する職員みなさんの理解と協力により、令和3年度実績は対前年度比8000万円あまりの抑制に成功しました。

庁舎維持管理等経費の実績額推移(単位:億円)



庁舎維持管理等経費や光熱水料などの「生活費」にあたる経費には、職場環境に直結するものも含まれているため、物件費の最適化に向けた取組にあたって、そうした必要な経費は減らすことにならないよう慎重に見極める必要があります。その見極めには、みなさんの理解と協力、行動が不可欠です。引き続きご協力をお願いします。